

会議の公開は協働の まちづくりの第一歩



質問者
平野 由里子 議員

役場内の各課で委員会や審議会などの会議が数多く開かれていますが、その公開性について伺います。本山町長は協働のまちづくりを提唱し、また住民自治基本条例の制定を公約としています。

それらの前提是、情報の共有と課題の共通認識であると考えます。そこで、以下の点を伺います。

(1) 各種会議のうち、傍聴可否の判断はどのように基準でなされていますか。またその割合は?

(2) 傍聴可能なものの日程の告知は、どのような方法がとられていますか。またそれは課単独ですか。またそれは課単独でおこなっていますか。総務課でまとめておこなっていますか。

A 委員会等の傍聴 を前向きに 検討する

回答（町長）

(3) 可能な限り傍聴を認め、その日程をわかりやすく告知するために、ホームページを活用してはいかがですか。

(1) 現在42の委員会等のうち傍聴に関する規定があるのは、教育委員会、教育総合会議、新松田駅周辺地域まちづくり協議会の3つのみで7%である。個人情報を扱う委員会などは傍聴に適さない



役場玄関横に設置の掲示場

(2) 告知は、庁舎前の掲示板に告示や広報の紙面を使って所管課が行っている。

(3) 今後は、町ホームページでリアルタイムに情報発信する。行政の「見える化」を推進し、町民との問題意識の共有化を図るためにも、わかりやすい情報発信を検討する。

一般質問は、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。



森町議会の会議室にて

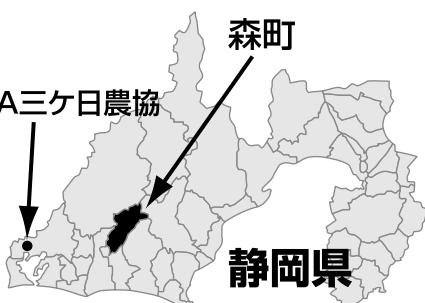
ふるさと納税の原型

議員行政視察報告 不断の努力がもたらす町への関心

平成28年2月22日(月)～23日(火)

参加議員 鈴木眞徳・石内 浩・利根川茂・中野 博

南雲まさ子・井上栄一・田代 実・平野由里子



ふるさと納税の原型
静岡県森町は、松田と同じく温暖な中山間地で人口は1万9千人ほど。平成27年度は20件で600万円以上。理由としては、町を出ても比較的近隣で事業をする方が多く繋がりがあること、歴史ある町出身と言う誇りをもつている方が多いことがある。町を愛する心を育てる事はもちろん大切だが、エリヤ全体が豊かになることが、人口や富の一方的流出を和らげると思う。

きめ細かい議会報告会について
議会報告会について
は、平成24年度から始まり、予算承認後の5～6月に町内の全6地区を回って開催。参加者数は27年度延べ165人。準備では、日時と場所について町内会長連絡会との調整を重視。重要な意見は、全議員参加の「行政問題研究会」で月2回研究討議する。議会報告会が「報告の場」だけでなく、地域からの問題を「吸収する場」にもなっています。26年度からは、11月にも開催。28年度の報告会は、議員各自が地域で報告会をやる前提で、議会全体の報告会のやり方を検討中とのことです。常に「開かれた議会」を目指して努力する姿勢は大変勉強になった。

なお、JA三ヶ日農業協同組合へミカソについての視察もいたしましたが、紙面の関係で省略させていただきます。

（記・平野由里子）